

日本ダルクローズ音楽教育学会

第19回研究大会

プログラム



2019年11月10日(日)

会場：国立音楽大学

主催：日本ダルクローズ音楽教育学会

お知らせ

当学会は、創立 46 周年（1973～2019）を迎えます。

2019 年 11 月 10 日（日）第 19 回研究大会を

国立音楽大学にて開催いたします。

多数のご参加をお待ちしております。

◎日本ダルクローズ音楽教育学会

○第 19 回研究大会 実行委員会委員名（五十音順）

*実行 委員長：福嶋 省吾

*事 務 局 長：大谷 純一

*実 行 委 員・伊藤 仁美・井上 恵理・入江 眞理・大谷 純一

・鎌形 由貴乃・神原 雅之・佐藤 邦子・鈴木 恵津子・関口 博子

・高倉 弘光・高牧 恵里・武内 理恵・中館 栄子・中山 裕一郎

・福嶋 省吾・細川 匡美・松井 いずみ・山下 薫子

*補 助 委 員・受付・案内・会場等での補助学生 国立音楽大学学生

日本ダルクローズ音楽教育学会

第19回研究大会

大会プログラム構成

I. ワークショップ

～プラスチック アニメ体験～

II. 口頭による研究発表

III. E. J =ダルクローズの作品演奏

(こどものための歌)

IV. ラウンドテーブル

4分科会同時進行

V. 資料展示

(日本ダルクローズ音楽教育学会関係資料)

VI. 書籍販売(株式会社 宮地楽器)

VII. 懇親会 (玉川上水駅周辺)

日時：2019年11月10日(日)10時開始

会場：国立音楽大学

ご挨拶 第19回研究大会を迎えて

日本ダルクローズ音楽教育学会
会長兼実行委員長 福嶋 省吾

2018年度は6月3日に第51回研究例会が東京家政大学を会場にして開催され、活発な研究協議を得ることができました。そして11月11日には同大学を会場にして創立45周年記念大会（兼第18回研究大会）が開催され、多数の参加者により研究協議が行われました。

2019年度は6月9日第52回研究例会が東京藝術大学を会場にして開催され、活発な研究協議が展開されました。そして、第19回研究大会を国立音楽大学のご厚意により、大学の施設をお借りして開催することができましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、近年新会員も増えてまいりましたので、本会設立の略歴に触れておきたいと思います。本会は1967年8月1日国立音楽大学Ⅱ類（リトミック専攻）「同窓会」として発足し、1973年6月30日「ダルクローズ音楽教育研究会」に改称。次いで1994年6月5日「日本ダルクローズ音楽教育研究会」に改称して研究活動を開始。1998年11月23日国立音楽大学附属小学校を会場にして研究会創立25周年記念大会を開催して260余名の参加者を得ました。1999年6月6日「日本ダルクローズ音楽教育学会」（日本学術会議協力学術研究団体登録）となり、2019年度は創立46年目を迎えております。

本学会の目的は「ジャック＝ダルクローズの音楽教育（リトミック）に関する研究協議を行い……」であります。学会の使命は学術的な基礎研究と実践的な臨床研究を積極的に推進すべく研究環境を整備していくことでもあります。すでに研究例会を52回開催し、年次研究大会を18回開催して多くの会員の研究発表の場として研究環境を設定してまいりました。また学会誌『ダルクローズ音楽教育研究』を43号まで刊行、周年事業として『研究論集』を3冊刊行、『会報』を74号まで発行するなど、多数の会員による多くの研究発表および研究論文を通してリトミック教育研究の成果を着実に蓄積してきました。この46年間における歴史的経緯とその研究的資産は、わが国の音楽教育の分野において、少なからず貢献してきたのではないかと思います。ここで当学会の役割をあらためて確認すれば、第一はE.ジャック＝ダルクローズが考案した「リトミック」または「リトミック教育」において実践的臨床的な研究を深めることと、哲学的心理学的そして教育学的な理論研究および文献史料学に基づく基礎研究を推進していくこと、そのための研究環境を設定することでもあります。そしてこれらの研究分野を深めながらその真理を探究することです。第二はこの基本的な研究分野から、生涯教育ともいえる幼児から大人までの音楽教育の一分野として、リトミック教育の豊かな実践を積み上げ、これらの実践事例研究を積極的に理論化していくための研究環境の場でもあります。

当学会は、創立46年目を迎え50周年および100周年を展望して理論と実践をリトミック教育研究の重要な2本の柱として研究活動を推進する研究環境を整えていきたいと思っております。今回も盛り沢山のプログラムを設定しております。第19回研究大会には多数のご参加をお待ちし、活発な研究協議が行われますことを期待いたします。

（ふくしま しょうご／元東京福祉大学）

目 次

1. ご挨拶 福嶋 省吾 (会長) (1)
2. 大会参加要項・インフォメーション (3)
3. 実行委員会企画 ワークショップ (10:00-11:00) (8)
～プラスチック アニメ体験～
企画・講師：中館 栄子 (アンサンブル ユーリズミックス)
司会：佐藤 邦子 (東京家政大学)
4. 口頭による研究発表 (11:15-12:45) (9)
《研究発表》
☆司会：神原 雅之 (京都女子大学)
 - ・ 1. ジュネーヴ・ジャック=ダルクローズ音楽院の「今」
—国際大会 2019 年から見えること— 井上 恵理 (国立音楽大学)
 - ・ 2. 第 4 回 International Conference of Dalcroze Studies に参加して
その役割と可能性を探る 櫻井 靖子 (新渡戸文化高等学校)
 - ・ 3. 保育におけるリズム楽器の活用を考える
—リトミックの動きの視点から— 入江 眞理 (静岡産業大学)
5. 実行委員会企画 E. J =ダルクローズの作品演奏 (13:45-14:35) (12)
(子どものための歌)
ソプラノ：林 裕美子 (エリザベト音楽大学)
ピ ア ノ：柴田 美穂 (エリザベト音楽大学)
企画・司会：中館 栄子 (アンサンブル ユーリズミックス)
6. ラウンドテーブル (14:50-17:00) (14)
◎基本テーマ：基本テーマ：各分野におけるリトミック教育実践の在り方を考える
総合企画・司会者：福嶋 省吾 (元東京福祉大学)
 - 第 1 分科会：幼児教育分野 企画・司会：伊藤 仁美 (国立音楽大学)
報告者：伊藤 仁美 (国立音楽大学)
 - 第 2 分科会：学校教育分野 企画・司会：高倉 弘光 (筑波大学附属小学校)
報告者：河崎 秋彦 (取手市立取手東小学校)
：佐藤 温子 (国立音楽大学附属小学校)
 - 第 3 分科会：保育者養成教育分野 企画・司会：大谷 純一 (聖セシリア女子短期大学)
報告者：入江 眞理 (静岡産業大学)
：佐々木 由喜子 (池坊短期大学)
 - 第 4 分科会：高齢者福祉分野 企画・司会：鈴木 恵津子 (鎌倉女子大学)
報告者：楠田 千代子 (聖セシリア女子短期大学)
額田 優美 (植草学園短期大学)

大会参加要項

◎主催：日本ダルクローズ音楽教育学会
第19回研究大会実行委員会

I. 開催日時：2019年11月10日（日）9時30分受付開始

II. 大会会場：国立音楽大学 6号館（東棟）6-110、5号館教室

住所：東京都立川市柏町5-5-1

最寄り駅：西武新宿(拝島)線「玉川上水駅」下車改札出て左へ、西武線線路沿い徒歩7分

多摩都市モノレール「玉川上水駅」下車改札出て右へ、西武線線路沿い徒歩7分

※車でお越しになられる方は大学駐車場をご利用ください。

III. 時程と会場

11月10日（日）時程	プログラム	大会会場
9:30～	*受付開始	6号館(東棟)ロビー
10:00～11:00	・ワークショップ ～プラスチック アニメ体験～	6号館(東棟)6-110
11:15～12:45	・口頭による研究発表	5号館 5-121
12:45～13:35	・昼食時間帯(休憩室含む) 《各会場にて司会者との打ち合わせ、 機材確認等》	7号館食堂スペース
13:35～13:45	・大会全体会(挨拶・インフォメーション)	6号館(東棟)6-110
13:45～14:35	・E. J =ダルクローズの作品演奏 (子どものための歌)	6号館(東棟)6-110
14:50～17:00	・ラウンドテーブル 4分科会設定 基本テーマ：各分野におけるリトミック 教育実践の在り方を考える	第1：5号館 5-113 第2：5号館 5-121 第3：5号館 5-211 第4：5号館 5-219 まとめ会場：6-110
※9:30～16:50	・学会関係資料展示 ・書籍販売(宮地楽器)	6号館(東棟)ロビー 7号館1階宮地楽器
18:00～20:00	・懇親会	玉川上水駅付近

IV. 大会参加費は、以下の通りです。

1. 大会参加費

種 類	事前申込者	当日受付者	備 考
イ) 会 員	2,500 円	3,000 円	大会プログラム（発表要旨）代を含む
ロ) 一 般	3,000 円	3,500 円	” ”
ハ) 院・学生	1,000 円	1,500 円	” ”

2. 大会参加申し込み方法

事前申込：大会参加への事前申し込みも受け付けております。

- ① 会員の方：同封の「払込取扱票」を使用し、必要事項を記入してお振込下さい。
- ② 一般の方：郵便局の「払込取扱票」に[第 19 回研究大会参加費]と明記してお振込下さい。
- ③ 振込期限：11 月 7 日（水）までに下記口座へお振り込み下さい。

尚、郵便振替は事務局に届くまでに日数がかかりますので、11 月 8 日以降に手続きをされますと、行き違いになる可能性があります。お早めに申し込み下さい。

郵便振替口座番号：00170-3-60580

口 座 名 義：日本ダルクローズ音楽教育学会

3. 懇親会費は事前申込および当日受付にて参加申し込みし、懇親会会場で支払う。（4000 円予定）

4. 院生・学生は、受付の際に学生証をご提示下さい。

5. 当日配布する『補足資料』がある方は、「研究発表」80 部、および「各ラウンドテーブル」は 30 部印刷し、当日司会者に直接お渡し下さい。事前送付は受け付けておりません。また、大会当日会場におけるコピー機・印刷機などの使用はできません。

尚、『補足資料』の一部は各司会担当者へ事前に必ずお渡し下さい。

6. 機器の使用は、事前に申請された方のみに限らせていただきます。

また、準備の都合上「当日の申し出」には応じられませんのでご了承下さい。

- ・研究発表の方は、9：30 から、会場にて司会者と打ち合わせと機材の確認をします。
- ・午後の J = ダルクローズ作品演奏とラウンドテーブルの担当者は、12：45 から各会場にて司会者との打ち合わせおよび器材のテストを行います。

7. 口頭による研究発表方法と補足資料の配布について

- 1) 発表時間は、1 件につき 30 分（時間配分：20 分発表・5 分質疑・5 分準備）です。
- 2) 発表会場では、発表時間終了のベルを鳴らします。ご協力をお願いいたします。
- 3) 1 件発表ごとに会場準備の時間を 5 分間設定しております。
- 4) 発表のための「補足資料」は、各発表者の開始直前に配布しますのでご了承下さい。
なお、残部は会場入り口の机の上に置いてありますので、ご自由にご持参下さい。

インフォメーション

1. 駐 車 場 : 学校構内の駐車場を使用できます。
2. 大 会 本 部 : 6号館(東棟)ロビーに設置しております。
3. 昼 食 会 場 : 昼食は、休日のため学生食堂が閉鎖されておりますので、ご持参下さい。
昼食場所は、7号館1階スペースをご利用下さい。
大学周辺に飲食店はございません。
4. 交 通 案 内 : プログラムの裏表紙に掲載されている「交通案内図」をご覧ください。
5. 会 場 案 内 : プログラムの「校舎配置図」および「大会会場図」をご覧ください。
6. 時 程 と 会 場 : 当日の時程と会場は、プログラムの「大会参加要領」をご覧ください。
7. 懇 親 会 : 懇親会会場は、玉川上水駅周辺のお店を予定しています。
参加者相互の親睦を図る意味で開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。
尚、受付にて懇親会に参加を申し込まれた方は、懇親会会場にて係にお申し出下さい。
会費は懇親会会場にて清算いたします。

<諸注意>

1. 喫煙：全構内のすべてが**禁煙**ですのでご承知置き下さい。
2. ご自分の「ゴミ」は、必ずお持ち帰りください。
3. すべての会場において、写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
4. 地震など緊急事態発生の場合は、構内緊急放送の指示により、避難行動をして下さい。

日本ダルクローズ音楽教育学会
第19回研究大会実行委員会

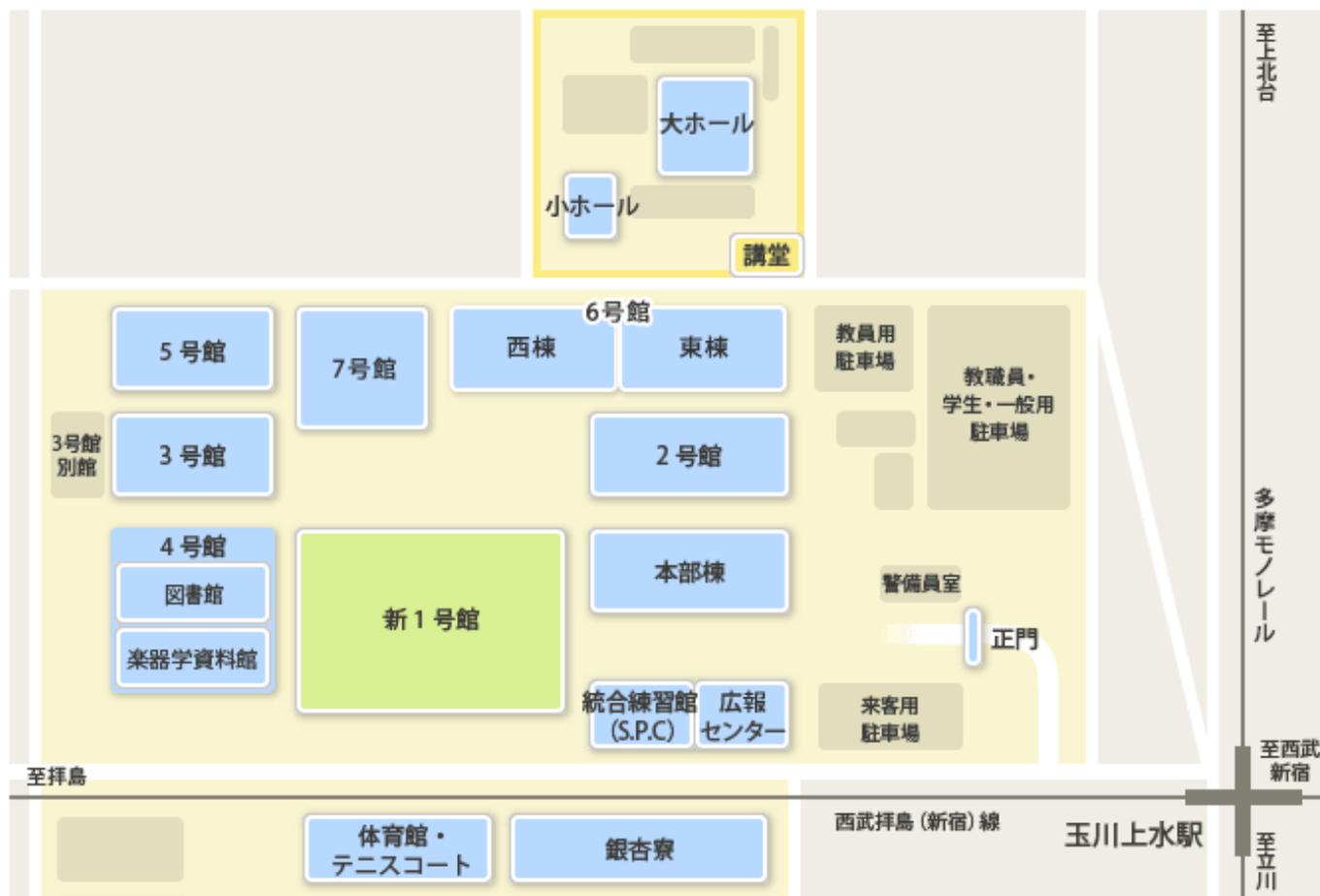
事務局 〒185-0003 東京都国分寺市戸倉3-21-7 (福嶋 気付)

TEL & Fax : 042-575-7270

E-mail : office@eurhythmics.jp

URL <http://www.eurhythmics.jp/>

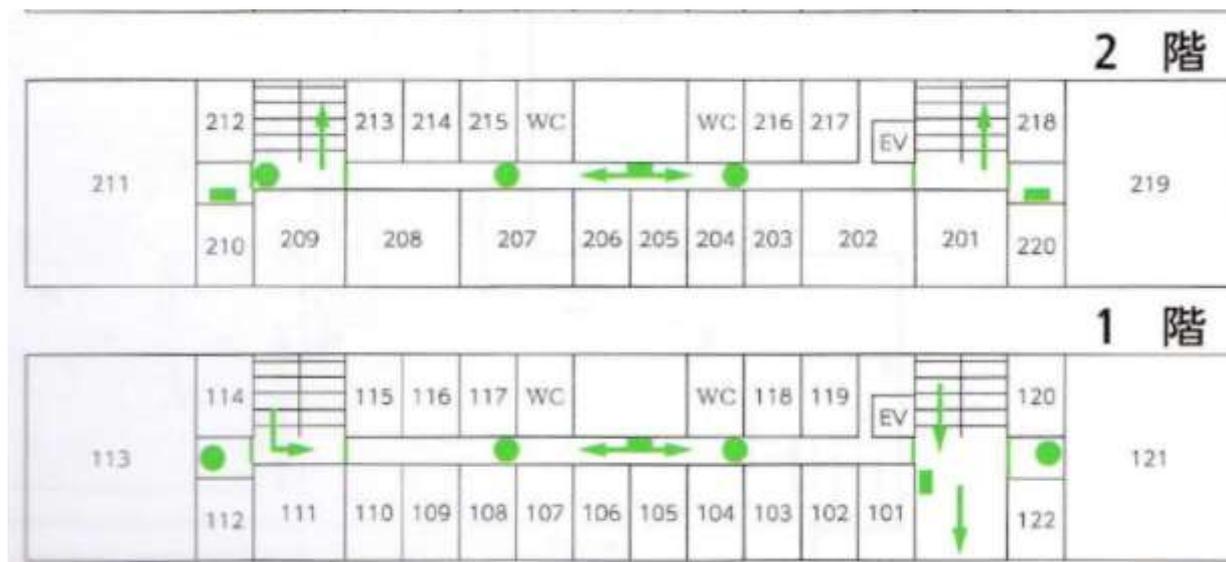
国立音楽大学校舎マップ



第 19 回研究大会使用会場一覧

- ・ 受付会場 6号館 (東棟) ロビー
- ・ 開会式会場 6号館 (東棟) 6-110
- ・ ワークショップ会場 6号館 (東棟) 6-110
- ・ 口頭発表会場 5号館 5-121
- ・ J=ダルクローズ作品演奏会場 6号館 (東棟) 6-110
- ・ 大会全体会会場 (挨拶&案内) 6号館 (東棟) 6-110
- ・ ラウンドテーブル第1分科会会場 (幼児教育) 5号館 5-113
- ・ ラウンドテーブル第2分科会会場 (学校教育) 5号館 5-121
- ・ ラウンドテーブル第3分科会会場 (保育者養成教育) 5号館 5-211
- ・ ラウンドテーブル第4分科会会場 (高齢者福祉) 5号館 5-219
- ・ 昼食、休憩会場 7号館 1階 食堂スペース
- ・ 書籍販売会場 7号館 1階 宮地楽器店内

5号館会場図（口頭発表・ラウンドテーブル）



口頭発表会場

5号館 5 - 121

ラウンドテーブル

第1分科会会場（幼児教育）

5号館 5 - 113

第2分科会会場（学校教育）

5号館 5 - 121

第3分科会会場（保育者養成教育）

5号館 5 - 211

第4分科会会場（高齢者福祉）

5号館 5 - 219

まとめ会場

6号館 6 - 110

ワークショップ
～プラスチック アニメ体験～

企画・講師：中館 栄子（アンサンブル ユーリズミックス）

司会：佐藤 邦子（東京家政大学）

《企画趣旨》

20世紀の初頭リトミックの創始者 E.J=ダルクローズは、音楽と響きあう心と身体に着目し、リトミックを提唱した。今日では、リトミックを通して得た音楽の喜びは人間の生きる力としても評価され、世界中に普及している。

その中で、特に「心の耳で聴いた音楽の感動から、身体による音楽の視覚化を目指す」「息づいている音楽を身体によって再創造していく」という彼の提唱したダンス様式《プラスチック アニメ》は、世界の芸術概念を一新し、日本においても、作曲家山田耕筰、舞踊家石井漠、伊藤道郎をはじめとして多くの芸術家に影響を与えている。

さらに、本学会として一番関心の高い音楽教育におけるリトミックにおいても、リトミック・ソルフェージュ・即興の3部門に加え、最近は音楽をより創造的に展開、指導していく《プラスチック アニメ》が注目されてきている。特に鑑賞においてその意義は大きく評価され、広範囲で導入されている。

今回は体験なくして十分な考察が不可能な《プラスチック アニメ》を体験してみたい、という会員からの声に応えての企画となった。音楽の構成は勿論のこと、エネルギーやニュアンスの変化は動きそのものであり、その身体で表現される音楽の創作過程を体験していく。体験を通して E.J=ダルクローズの音楽教育に対する新たな発見、音楽観、教育観のさらなる探求など、リトミックの実践研究の一助となれば幸いである。

《ワークショップ内容》

- ① プラスティック アニメの身体による音楽化を映像から感じ取る。
- ② 心と身体全体で音楽を聴けること、空間の中で自分と他者の関係を感じられること、など、ウォーミングアップのためにいくつかの楽曲を即興表現してみる。
- ③ 本日の楽曲カール オルフのカルミナブラーナより《ダンス》を分析しながら、プラスチック アニメの創作を試みる。

☆床にも座れる動きやすい服装でご参加下さい。更衣室は用意いたします。

☆底の薄いバレエシューズや室内用シューズをご持参下さい（下足、スリッパは不可）

★見学参加も大歓迎です★

ジュネーヴ・ジャック＝ダルクローズ音楽院の「今」
—国際大会2019からみえること—

井上 恵理

エミール・ジャック＝ダルクローズ(1865~1950)は、1915年にジュネーヴの「テラシエール通り44番地」に、彼の理想とする音楽教育を実践するためにジャック＝ダルクローズ音楽院を設立した。1926年には、ダルクローズのもとに、研究者が集い、第1回リズム会議が行われ、国際的な組織が編成された。国際大会のはじまりである。以来、定期的に国際大会が行われており、2015年には音楽院100周年とダルクローズ生誕150周年を記念した大規模な国際大会が行われた。

2019年7月22日から26日の5日間開催され、26カ国から300名が集まり、様々な実践講座、研究発表、実践報告、イベント等が展開された。

拙者は1989年から1995年にジュネーヴに留学し、その期間、それ以降、国際大会に参加している。それぞれの大会の内容や印象は、異なる。ジュネーヴ市内の大学や市内のホールを使用したこともあったが、今回は、「テラシエール通り44番地」に設立している音楽院の中だけで行われた。

本発表では、「国際」大会の企画と運営という観点から、5日間のプログラム構成、実行委員会が企画したイベントを、時間軸と空間軸(音楽院の建物の活用)から考察する。ダルクローズの理念を継承しつつ、創造的な時空間を私たちに提案するジャック＝ダルクローズ音楽院の「今」を浮き彫りにしていく。

(いのうえ えり/国立音楽大学)

第4回 International Conference of Dalcroze Studies に参加して
その役割と可能性を探る

櫻井 靖子

今年の夏、7月28日～8月2日、ポーランド、カトヴィツェに所在する Karol Szymanowski Academy of Music において第4回 International Conference of Dalcroze Studies (以後 ICDS と記載) が開催された。

この大会は2013年に第1回が英国コベントリー (イギリス) において開催され、第2回目が2015年にウィーン (オーストリア) で、第三回目は2017年にケベック (カナダ) で開催されてきた。

第4回目の今年の開催場所はカトヴィツェというポーランドの小さな町の、カール・シマノフスキ音楽アカデミー。このアカデミーは、今年創立90周年という歴史がある。そして、ユーリズミクス学部は30周年という。設立にはヘレラウの研究所の最初の卒業生が関わっており、リトミック教育は、今日まで、ショパンの故郷であるポーランドで、芸術教育の重要な一部となっている。

今回の国際会議には26か国から217名の参加者があり、開会式を除く5日間に行われた発表やワークショップは80を超えた。ワークショップや講演の他にも、シンポジウム、ラウンドテーブルが開かれ、各国でリトミック教育に携わるリトミシャンや学生たちは、指導における手法から、生徒と向き合うときの心の在り方まで、様々な角度から丁寧に議論することができた。

また、毎晩シアターで披露された、カール・シマノフスキ音楽アカデミーの学生たちによるプラスチック アニメ、ポーランドならではのスペシャルイベント、他国とのコラボレーションは、非常に盛りだくさんで、ホスト国色豊かな内容であった。

拙者は2000年から2001年に Hochschule für Musik und Theater Hannover のリトミック科で学んだ経験があり、その間にマルメ(スウェーデン)の大会とジュネーブのヨーロッパの学生対象の大会に参加している他、それ以前と以降にもジュネーブのリズム学会と国際大会に参加経験があるが、今回参加した ICDS の所感をもとに、参加者の立場からみた ICDS の意義と可能性について考察する。

(さくらい やすこ/新渡戸文化高等学校)

保育におけるリズム楽器の活用を考える
ーリトミックの動きの視点からー

入江 眞理

幼稚園教育要領、保育所保育指針、及び幼保連携型認定子ども園教育・保育要領における保育内容「表現」には、「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう¹⁾」という記述が共通して示されている。また、簡単なリズム楽器²⁾であるカスタネット、鈴などは、多くの幼稚園、保育所、子ども園に備えられており、子どもにとっても、保育者にとっても、大変身近な楽器といえる。しかし一方で、「楽器を使った活動が少ない³⁾」こと、「毎日の生活の中で行われることが少ない⁴⁾」といった指摘があり、リズム楽器が子どもの表現活動のために十分活用されていない現状がうかがわれる。

リトミックにおいては、「20年代になってリトミック教師たちの多くが…鐘、トライアングル、ハンドドラム、バットなど、小さな楽器を使うようになった⁵⁾」、と示される通り、現在でもリズム楽器を使用するリトミック実践は少なくない。リトミックで用いられる用具としての楽器は、「行動を誘発するもの、動きを刺激するもの、表現を強めるもの…独自のダイナミクス、独自の運動リズム、独自の響き⁶⁾」をもつことが条件とされ、その条件はそのまま「リトミック授業の目的⁷⁾」となる。そこで、保育におけるリズム楽器を使った活動をリトミックの動き（運動）という視点からとらえ直し、リズム楽器による新たな表現の可能性を検討したいと考えている。まずは、保育におけるリズム楽器の活用の現状を明らかにするため、静岡県西部の保育者に質問紙による調査を実施した。その調査結果に基づいて、リズム楽器と動きによる表現について考察していく。

(いりえ まり／静岡産業大学)

1. 文部科学省、「幼稚園教育要領」、厚生労働省、「保育所保育指針」、文部科学省、厚生労働省、「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」
2. 本研究におけるリズム楽器とは、大太鼓、小太鼓、タンブリン、シンバル、トライアングル、鈴、カスタネット、ウッドブロック等、メロディーを演奏することはできない楽器を指すこととする。
3. 乙部はるひ著、「帝京平成大学紀要 第27巻」、『保育現場における楽器導入の仕方を考える：保育者の願いと幼児の発達とのギャップを通して』2016、p.102
4. 同上書、p.102
5. ラインハルト・リング、ブリギッテ・シュタインマン編著、河口道朗、河口眞朱美訳、『リトミック事典』、開成出版、2006、pp.102-103
6. 同上書、p.103
7. 同上書、p.103

E.J=ダルクローズの作品演奏（子どものための歌）

ソプラノ： 林 裕美子（エリザベト音楽大学）

ピアノ： 柴田 美穂（エリザベト音楽大学）

企画・司会：中館 栄子（アンサンブル ユーリズミックス）

《企画趣旨》

今回は、ダルクローズの作品の中でも皆が関心を寄せ、リトミックの集いなどでもよく出会う子どもの歌を、という趣旨で企画され、コンサートでもダルクローズの歌をレパートリーにされているエリザベト音楽大学の林裕美子氏と柴田美穂氏がお引き受け下さった。本学会でも何度かお招きしているお二人が、ダルクローズが子どもたちに注いだ愛情あふれる歌の数々をいかに豊かに表現して下さるか、今回も楽しみにしたい。（中館）

❖ プログラム（演奏曲目と解説）❖

I. 『ロマン地方の民謡』“Chansons populaires Romandes” より

1) 「ひな鳥は枝を去り」 *Loiselet a quitté sa branche*

ひな鳥は枝を離れ遠くへ飛んで行き、ふるさとの雪のアルプスや緑の樅の木を思い出して泣き、そして疲れ果てた翼で戻ってきてアルプスと杉のそばで死んでゆく。

2) 「カモメ」 *Les mouettes*

雪はその袋を空にするほど降りつもり、湖のカモメも真っ白。雪が解けてもカモメは雪の白。そのような変わらぬ心で湖の美しさを歌い、大切にしよう。

3) 「歌いながら生きよう」 *Vivons en chantant*

私が庭の菩提樹の下に行くと、蜜蜂は歌いながら蜜を吸い、小鳥は巣を作り、アリはお家を作っていた。歌いながら働こう、それが人生。

II. 『子どもの歌』“Chansons d'enfants” より

1) 「リヴィディディディディティティティ」 *Rividididididititi*

リヴィディティ、小さなジャンはカバンを背負って、寄り道したり、いたずらしたり、遊んだりしながら学校へ行きます。

2) 「縄跳び踊り」 *La danse à la corde*

スカートをつまんで、お嬢さん、失敗しないよう、アン、ドゥー、トロワ、上手に飛んで、ララララ。

III. 『12の新しい子どものための Rond』“12 nouvelles Rondes enfantine”

1) 「小さな兵隊さんの Rond」 *La ronde des petits soldats*

ランタンプラン、子どもたちの美しい隊列。足あともくっきり、頭をしっかりと上げて。小さくてもちゃんと祖国に尽くせます。

2) 「小さな小人のロンド」 “La ronde des petits nains de la montagne

山に住んでいる小さな小人たちは、羊飼いが達が眠っている間に、お掃除や、繕い物をし、バターを作る。

IV. 『歌を摘みましょう』 “Cueillons des chansons “より

1) 「バラを歌いましょう」 Chantons les roses

意地悪な冬は燕を追い出すけれど、春が陽気にやって来て彼らを呼び戻す。
寒さに震え、声も出ないひな鳥にも、ほら、春は忘れていた冬を思い出させる。”

2) 「聖ニコラ：サンタクロース」 Saint-Nicolas

靴下を暖炉にかけておこう。お人形や妖精のお話の本やアーモンド菓子を入れてね。
そうだ、お母さんのいない子どもたちを忘れないで、彼らの暖炉には希望を。

V. 『子どもたちの初めてのロンド “Premières rondes enfantines”より

1) 「白いこひつじ」 L'agneau blanc

僕の可愛いいまっ白なこひつじ、ずーっと眠っているこひつじ、ずーっと泣いているこひつじ、
ずーっと笑っているこひつじを僕は知っている。

2) 「キリ・キリカン」 Kiri-Kirican

お母さんの目をごまかすのは、キリ・キリカン、むずかしい。学校をさぼっても、畑から果物を取っても、お祈りをするのを忘れても、新しい服を汚しても、汚い手で鼻を触っても、お母さんにはすぐばれてしまう。

日本語で一緒に歌いましょう♪

1) ひな鳥は枝を去り… L'oiselet a quitté sa branche

2) 雪は降り積もる… La neige a vidé son sac

❖ 演奏者プロフィール ❖

林 裕美子 ソプラノ

武蔵野音楽大学声楽科卒業。パリ・エコールノルマル音楽院演奏家課程を首席修了。パリ・カトリック大学宗教音楽研究所にてグレゴリオ聖歌を学ぶ。帰国後、メサイア等宗教音楽のソリストとして各地で客演。故 H.P-ロジェ、故 J. デムス、井上二葉各氏とのデュオリサイタルやレクチャーコンサートでも好評を博す。日本フォーレ協会、日本シューベルト協会等会員。CD 「聖母マリアの賛歌」「日本歌曲 I, II, III, V, VII集」 翻訳「フランスのクリスマスの歌」現在、武庫川女子大学講師、エリザベト音楽大学教授。

柴田 美穂 ピアノ

東京藝術大学、同大学院修士課程修了。在学中に安宅賞受賞。1982年ジュネーヴ国際音楽コンクール入選。パリにてペルルミュテール氏に学ぶ。これまでに NHK - FM 「午後のリサイタル」、日本ショパン協会例会等にも出演。室内楽シリーズを14回開催している。現在、エリザベト音楽大学教授、音楽学部長。

(林)

基本テーマ：各分野におけるリトミック教育実践の在り方を考える

総合企画・司会者：福嶋 省吾（元東京福祉大学）

企画趣旨

昨年の学会創立45周年記念大会（兼第18回研究大会）では、シンポジウムを企画し、基本テーマとして「J＝ダルクローズのリトミック、コダーイ・メソード、オルフ・シュールベルクの日本への移入と発展について」を掲げ、各教育法における教育理念・内容、日本への移入の経緯、教育現場での実践と発展、研究会や学会が果たした役割、将来への展望の5つの項目について各パネラーからそれぞれ発表され、それに基づき研究協議が行われた。そこでは世界の3大音楽教育といわれているJ＝ダルクローズ、コダーイ・ゾルターン、そしてカール・オルフの音楽教育思想とその教育内容そしてその教育方法について、参加者はあらためて3者の全体像と上記5項目の概要を読み取ることができたのではないだろうか。

そこで今回は昨年のシンポジウムを踏まえ、さらにリトミック教育の具体的な内容について研究協議を深めて行くためにラウンドテーブルの形式により、再度以下4つの分野を分科会として設定したのである。参加されるみなさまの活発な意見交換などの発言を通して、明日への実践内容をさらに深めて行く手掛かりが得られることを期待して企画したのである。

ところで、ラウンドテーブルの企画の経緯は、今まで基本テーマを以下の通り設定してきた。すなわち、第17回研究大会（2017年度）では、「現代における音楽教育としてのリトミック教育の意義について再考する」と題し、4つの分科会を設定した。第16回研究大会（2016年度）では、「音楽教育としてのリトミック教育の意義—実践事例を通して再考する—」と題し、4つの分科会を設定した。第15回研究大会（2015年度）では、「リトミック研究の在り方—他の分野との関りからみたりトミックについて、歴史的視点から、認知的視点による歴史的事象の再評価—」を設定し、3名のパネラーから提言を得た。第14回研究大会（2014年度）では、「リトミック研究を語る—実践から研究へ—」を設定し、3名のパネラーから提言を行った。そして、第47回研究例会（2014年度）において、「研究とは何か」を基本テーマに設定し、研究発表者3名の提言を踏まえて参加者との研究協議を深めた。

以上ラウンドテーブルを設定した経緯からも分かるように、本学会は、学会として一貫してリトミック教育実践を踏まえた研究協議を推進していくことの重要性を提起してきたのである。

近年学習指導要領や幼稚園教育要領および保育指針の改定が行われ、それに基づいて現場ではさまざまな教育実践が行われている。しかし、子ども側や学生側から見て、子どもや学生にとって何が育てられ、そして何が育ってきたのか。また指導者は子どもや学生の何を育てようとしてきたのか、これら教育実践を通して学術的な研究を深め、目的・内容と方法そして教育評価について再度吟味し分析することが必要ではないだろうか。

リトミック教育もこの基本的で学術的な視点からの研究を重要視しなければならないと思わ

れる。このことは、学会としてリトミック教育がわが国の音楽教育にとってより豊かな内容と方法を展開していくための重要な役割を担うことでもある。

したがって、今回のラウンドテーブルも従来の4分野を区分し4つの分科会を設定した。

<ラウンドテーブル構成と担当者>

第1分科会は、幼児教育分野を設定し、幼児教育におけるリトミック教育の実践事例を通してその在り方を考える。

企画・司会者：伊藤 仁美（国立音楽大学）

・報告者：伊藤 仁美（国立音楽大学）

第2分科会は、学校教育分野を設定し、小学校教育におけるリトミック教育の実践事例を通してその在り方を考える。

企画・司会者：高倉 弘光（筑波大学附属小学校）

・報告者：河崎 秋彦（取手市立取手東小学校）

佐藤 温子（国立音楽大学附属小学校）

第3分科会は、保育者養成教育分野を設定し、短期大学や学部学生におけるリトミック教育の実践事例を通してその在り方を考える。

企画・司会者：大谷 純一（聖セシリア女子短期大学）

・報告者：入江 眞理（静岡産業大学）

佐々木 由喜子（池坊短期大学）

第4分科会は、高齢者福祉分野を設定し、そこでのリトミック教育の実践事例を通してその在り方を考える。

企画・司会者：鈴木 恵津子（鎌倉女子大学）

・報告者：楠田 千代子（聖セシリア女子短期大学）

額田 優美（植草学園短期大学）

<ラウンドテーブルの進行方法について>

各分科会の企画・司会者から、テーマ設定についての趣旨説明が行われ、その後報告者から実践事例の報告を受け、質疑応答を踏まえながら研究協議を深める。

最後に30分間の全体会において、本企画趣旨の説明と共に各分野における研究協議内容を分科会ごとに報告を行い、参加者ととも協議内容を共有する。

日本ダルクローズ音楽教育学会 入会ご案内

○本会創立の経緯

当初は研究会として1973年に創立し、1998年11月23日に研究会創立25周年記念研究大会を開催し、260名の参加者により充実した研究大会となった。その翌年の1999年6月の会員総会において、さらに研究活動を精力的に展開すべく組織として、発展的に従来の研究会から学術団体としての学会へ名称を変更した。その後年次研究大会を開催し、次いで5年毎に創立記念研究大会を開催。2003年11月23日創立30周年記念研究大会(第3回兼)を開催し、『記念論文集』を刊行。2008年11月23日創立35周年記念研究大会(第8回兼)を開催し、『記念論文集』を刊行した。なお、2013年11月23日には、創立40周年記念研究大会(第13回研究大会兼)を開催した。なお、創立40周年を記念して『記念論集』が開成出版社から2015年に刊行された。

2017年度は、第17回研究大会を開催し、多数の参加者を得て充実した研究協議が展開された。次いで、2018年度は、研究例会第51回開催。そして、創立45周年記念大会(兼第18回研究大会)を開催している。2019年度は第52回研究例会を開催した。学会誌『リトミック音楽教育研究』第44号(2019年度号)の刊行を準備している。

○学会活動の目的

本会は、ジャック＝ダルクローズの音楽教育(リトミック)に関する研究協議を行い、会員が相互に協力し合ってリトミック教育の普及とその発展を図り、よって日本の音楽教育の発展に寄与する事を目的とする。(会則)

○事業

- ・研究大会、研究例会、講演会などを企画開催。
- ・学会誌「ダルクローズ音楽教育研究」の刊行。
- ・記念論文集の編集刊行。
- ・内外の学会、研究会との連絡協力。

○入会資格

- ・正会員：ジャック＝ダルクローズに関する研究・実践に関わる者および関心を持つ者。
- ・学生会員：ジャック＝ダルクローズに関心を持つ学生。

○事業の具体例

- ・研究大会は、年次大会として年1回開催している。
- ・研究例会は、年1回以上開催し、会員総会を兼ねて6月第1週目に開催している。
- ・創立周年事業として、5年毎に周年記念研究大会を開催し、同時に周年記念論文集を刊行している。

*多数のご入会をお待しています。(事務局)

戦時下の子ども・音楽・学校 —国民学校の音楽教育— CD付

本多佐保美／西島 央／藤井康之／今川恭子 編著 ISBN978-4-87603-492-5 定価(本体 4000 円+税)

リトミック研究の現在 日本ダルクローズ音楽教育学会 編 ISBN978-4-87603-304-1 定価(本体 3000 円+税)

リトミック実践の現在 日本ダルクローズ音楽教育学会 編 ISBN978-4-87603-398-0 定価(本体 3000 円+税)

リトミック教育研究 日本ダルクローズ音楽教育学会 編 ISBN978-4-87603-497-0 定価(本体 3000 円+税)

音楽教育の原理 河口道朗 著 ISBN978-4-87603-487-1 定価(本体 3600 円+税)

最新音楽教育事典 S. ヘルムス／R. シュナイダー／R. ヴェーバー 編
河口道朗 監修 ISBN978-4-87603-208-2 定価(本体 8000 円+税)

リズム・音楽・教育 定本オリジナル版 E・ジャック＝ダルクローズ 著
河口道朗 編 河口眞朱美 訳 ISBN978-4-87603-400-0 定価(本体 3500 円+税)

音楽と人間 E・ジャック＝ダルクローズ 著 河口道朗 訳 ISBN978-4-87603-433-8
定価(本体 3000 円+税)

子どもと音楽創造 サティス N. コールマン 著 丸林実千代 訳 ISBN978-4-87603-328-7
定価(本体 1800 円+税)

幼児音楽教育要論 神原雅之 編著 ISBN978-4-87603-486-4 定価(本体 2000 円+税)

開成出版(株) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-26-14

TEL 03-5217-0155／FAX 03-5217-0156 URL <http://www.kaisei-p.jp>

宮地楽器国立音楽大学店でございます。2019年1月より、新しくできました国立音楽大学「7号館」に移転しております。本日は、営業をしており、リトミック関連の書籍、教材をご用意して皆様のお越しをお待ちしております。

ご遠方の方にはWebShopにて通信販売も承りますので、是非ご利用下さいませ。

本日 書籍・楽譜10%OFF、教育楽器20%OFF

宮地楽器 国立音大店 WEB SHOP

<http://miyajimusic.shop-pro.jp/>



- ・WEB SHOPに掲載の無い商品も承ります。
- ・音楽に従事されている皆様の専門性の高い楽譜・書籍は音大の店舗ならではの豊富な知識を持ったスタッフにお任せください。
- ・発表会やイベントなどの記念品のご注文も承ります。また、無料で包装も致します。(当社指定包装紙)
- ご希望の方にはギフトカタログをお送り致しますので、お申し付けください。



音大店HP:<http://www.miyajimusic.com/ondai>

〒190-0004 東京都立川市柏町5-5-1 (国立音楽大学内)

TEL:042-537-8200/FAX:042-537-8201

E-mail : ondai-service@miyajimusic.com

営業時間：8：45～18：00 (土・日定休)

音楽のある毎日……♪ www.miyajimusic.com



宮地楽器 国立音楽大学店

日本ダルクローズ音楽教育学会
第19回研究大会プログラム

(2019年11月10日)

発行者：日本ダルクローズ音楽教育学会
第19回研究大会実行委員会
実行委員長 福嶋 省吾

編集者：実行委員会 プログラム編集担当者

事務局：〒185-0003 東京都国分寺市戸倉3-21-7 (福嶋気付)

Tel・Fax 042-575-7270

印刷所：望洋印刷株式会社

〒185-0014 東京都国分寺市東恋ヶ窪4-17-30

Tel・Fax 042-324-2611 (代)

国立音楽大学へのアクセス

